

圧倒的迫力の日本画の世界



川端龍子《西州機》部分
1939年
大田区立龍子記念館蔵

特別企画展

Ryushi

Kawabata

The World of Ryushi Kawabata
Nihonga of Energy and Innovation

堂本印象美術館に
川端龍子が
やってくる

2019年
10月12日(土)~11月24日(日)

開館時間=午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日=月曜日(月曜日が祝日の場合は閉館し、翌火曜日休館)

観覧料=一般510(400)円/高校・大学生400(320)円/小・中学生200(160)円
()は20名以上の団体料金

65歳以上の方(要公的証明書)および障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料

主催=京都府、京都府立堂本印象美術館(指定管理者:公益財団法人京都文化財団)、京都新聞

協力=大田区立龍子記念館 助成=一般財団法人地域創造

お問い合わせ=〒603-8355 京都市北区平野上柳町26-3 Tel.075-463-0007 <http://insho-domoto.com>

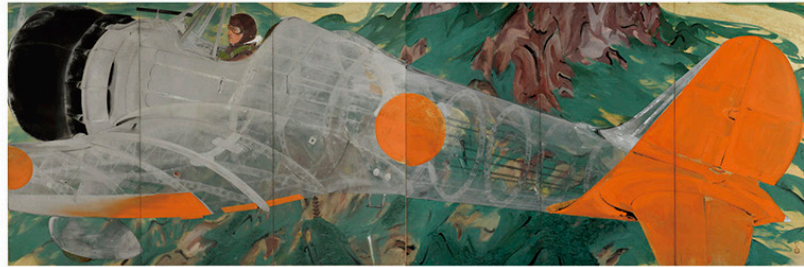
龍子没後、 京都の美術館施設における 初の回顧展！

東京で活躍した日本画家、川端龍子（ごんりゅうし）（一八八五―一九六六）は、戦前より「健剛なる芸術」の創造を唱え、伝統にとらわれない斬新で豪快な作風を創出したことで知られています。主宰した「青龍社」は帝展・院展と肩を並べる日本画壇の一大勢力となりました。このたび、堂本印象美術館では、龍子の初期から晩年にかけての代表作を取り揃え、その画業を振り返る展覧会を開催いたします。

本展では、龍子が主張した会場芸術の作品、京都を題材にした作品などを展示すると共に、京都にゆかりのある青龍社の画家たちの作品も一部紹介します。龍子と同時期に活躍した日本画家、堂本印象（一八九一―一九七五）が建てた美術館で、東の雄である龍子芸術をお楽しみください。



1
デコラティブな
堂本印象美術館
VS
ダイナミックな龍子芸術



2



3



4

京都に因ちなむ
作品も



6



5



7

関連イベント

■ 講演会

「会場芸術 ― 川端龍子がめざしたもの」

11月4日④ 14:00～

講師：木村拓也（大田区立龍子記念館主任学芸員）

会場：学校法人立命館 旧堂本印象邸（美術館東隣）

定員：先着30名

（当日13時より美術館ロビーにて整理券を配布します）

参加費：無料（本展入館券または65歳以上の公的証明が必要）

「龍子も描いた瓢亭」

11月9日④ 14:00～

講師：高橋英一（瓢亭十四代当主）

聞き手：松尾敦子（堂本印象美術館学芸員）

会場：立命館大学存心館

定員：先着100名

（当日13時より美術館ロビーにて整理券を配布します）

参加費：無料（本展入館券または65歳以上の公的証明が必要）

■ ギャラリートーク

10月26日④、11月2日④ いずれも13:30～

場所：2階展示室

■ 野外展示

第2回野外陶芸作家展

10月12日④～11月4日④（飯林）

場所：京都府立堂本印象美術館庭園【入場無料】

主催：京都府、京都工芸美術作家協会、

京都府立堂本印象美術館

出展陶芸作家が語る青空ガイドツアー

10月26日④ 14:30～

場所：京都府立堂本印象美術館庭園【参加無料】

■ 野外コンサート

馬頭琴とホーミー 秋空コンサート

11月3日④⑤ ①13:30～ ②14:30～

演奏：福井則之

場所：京都府立堂本印象美術館イベント広場

【入場無料】

- 1 川端龍子《爆弾散華》1945年 大田区立龍子記念館蔵
- 2 川端龍子《香伊勢》1939年 大田区立龍子記念館蔵
- 3 川端龍子《南飛園》部分 1931年 和歌山市立博物館蔵
- 4 川端龍子《金蘭炎上》1950年 京都市立近代美術館蔵

- 5 川端龍子《使徒所行囊》1926年 大田区立龍子記念館蔵
- 6 川端龍子《佳人好在》1925年 京都国立近代美術館蔵
- 7 亀井玄兵衛《阿古屋》1964年 安井金比羅宮蔵

【バス】立命館大学前 下車すぐ

JR京都駅より市バス⑨、JRバス（立命館大学経由）

JR円町駅より市バス⑩、JRバス（立命館大学経由）

阪急電車 西院駅より市バス 立命館大学行き

京阪電車 三条駅より市バス⑫、⑬、⑭、⑮、⑯

地下鉄 四条（阪急電車 烏丸）駅より市バス⑰、⑱、⑲

■当館には駐車場がございません。

〒603-8355 京都市北区平野上柳町 26-3

Tel.075-463-0007 <http://insho-domoto.com>

